

2025年度（令和7年度）

花さきデイサービス事業計画書

<事業の種類>

介護保険法による通所介護事業

介護保険法による介護予防通所介護事業（合計定員20名）

<運営方針>

在宅の要支援者・要介護者に対して、可能な限り慣れ親しんだ地域で生き生きと生活できるように支援する。

また利用者・家族の意見に耳を傾け「個」を大切にし、自立・自己実現を目指す。地域福祉の充実に図る為に地域包括支援センターを中心に、他事業所とも連携を図る。

<SWOT分析>

【強み】（事業所のもつ強み）

- イ）職員の離職率が低い
- ロ）利用者の要望に対して職員同士が情報を共有し柔軟に対応できる
- ハ）法人内の福祉サービスが充実している
- ニ）福崎町より福祉避難所の指定を受けている
- ホ）対応困難者に対して生活歴などを家族に聞き対応することで利用者一人ひとりの個別の認知症ケア対応ができた
- ヘ）ICT導入により事務時間の短縮ができ、手作業・コミュニケーションや機能訓練に充てる時間が増えた
- ト）身体状況、プライバシーに配慮した入浴が実施できるように3種類（大浴場、個浴、椅子浴）の浴槽がある
- チ）有資格者が多いので、利用者の重度化に対応できる

【機会】（事業所にとってビジネスチャンス）

- イ）毎月の事業所訪問を行っており、居宅介護支援事業所からの新規紹介が継続的にある
- ロ）西治区ミニデイサービスに年1回参加し顔なじみの関係ができています
- ハ）福崎町社会福祉協議会の事業の一環として学生向けの福祉講座に参加することで若い世代への福崎支部の認知度アップ、顔なじみの関係が期待できる
- ニ）社会資源が近隣に多くあるので、感染症が流行していても予防対策を講じれば外出することができる
- ホ）認知症カフェ「にんかふえ楽笑」を福崎図書館で開催することで地域住民の方に認知症に対する理解を深める場を設けると共に、施設を知って頂くきっかけとなっている
- ヘ）SNSを活用し情報の発信をすることで、法人活動を様々な人に知ってもらうことができた

【弱み】（事業所が抱える弱み、弱点）

- イ) 常勤職員が多く人件費率が高い
- ロ) 開設から10年が経過し、修繕箇所がみうけられる
- ハ) サービスの変更、死亡などにより前年度より3名少ない12名の利用終了者があった
- ニ) 施設行事や地域行事などの情報発信をSNSを通じて行いたい地域や介護支援専門員の登録数が少ない
- ホ) 新規居宅介護支援事業所の開拓ができていない

【脅威】（事業所にとって障害や困難ピンチとなる要因）

- イ) 人件費、光熱水費、物価等が高騰している
- ロ) 福崎町を通所介護のサービス事業地域にしている事業者が19事業所ある
- ハ) 自治会、消防団と合同避難訓練ができていないため、福祉避難所運営に不安がある
- ニ) 福祉業界全体が、人材不足のため求人をしていても人が集まらない

<事業計画>

- ・利用者の個別ニーズに対応した処遇を行うことにより、自立に向けた支援を行う。
 - ①入浴 ー 入浴により筋肉や関節の緊張を和らげ、気分のリラックスにつなげる。また入浴することで、清潔の保持や爽快感を得る。
 - ②排泄 ー 排泄に障害を持っておられる方に対して、安心安全な介助を提供しトイレでの排泄を目指す。
 - ③食事 ー 利用者・職員が共同でおやつの献立を考えるなど、食への関心を持つ。年1回嗜好調査を実施し、献立に反映する。
 - ④リハビリ ー 日常生活に必要な生活機能を維持するために、個々のニーズに合わせたプログラムを作成し、在宅生活の継続につなげると共に、家族の介護負担を軽減する。
 - ⑤レクリエーション ー 個人活動、集団活動を実施することにより、デイサービス利用の動機付けを行い社会参加への援助を行う。
- ・地域との連携
 - ① 西治区長、民生委員宅を訪問し情報の発信をおこなう
 - ② 地区行事に参加し地域住民と顔の見える関係づくりをおこなう
- ・介護支援専門員との連携
 - ①居宅介護支援事業所に赴き顔の見える営業を月1回継続して行う
 - ②稼働率の維持の為、空き情報を発信する（毎月2回）

<年間行事>

- | | |
|----------------|---------------------|
| 4月・・・花見 | 10月・・・秋祭り、運動会、ヤマサ外出 |
| 5月・・・鯉のぼり見学 | 11月・・・紅葉ドライブ |
| 6月・・・アジサイ見学 | 12月・・・クリスマス会、忘年会 |
| 7月・・・七夕、沙羅の花見学 | 1月・・・初詣、新年会 |
| 8月・・・納涼祭 | 2月・・・節分、観梅、抹茶の日 |
| 9月・・・敬老会、お茶会 | 3月・・・菜の花外出 |

レクリエーションや機能訓練はマスク着用、社会距離を保ち実施する

<日課>

時 間	項 目	内 容
8 : 0 0	迎え出発	検温、体温チェック、手指消毒
9 : 0 0	健康チェック	到着後手洗い、うがい、体温・脈拍・血圧の測定
9 : 1 5	入 浴	個浴・普通浴・椅子浴の提供
	学習療法等	計算問題・漢字問題などの提供
	個別機能訓練	希望される利用者の状態にあわせ、日常生活に必要な機能訓練の実施
1 1 : 4 0	口のリハビリ	口腔マッサージや早口言葉等の実施
1 1 : 5 5	新聞読み	地域の新聞の1面など利用者の関心のある記事の紹介。
1 2 : 0 0	昼 食	季節感のある食事の提供
1 3 : 0 0	自由時間 個別レク	休息や手作業・作品づくりなど個々の時間 *検温実施
1 4 : 0 0	レクリエーション	集団ゲーム・歌体操等・季節行事などの実施
1 4 : 4 5	機能訓練	①歩行練習・起立訓練の実施 ②各個人にあった手作業などの実施
1 5 : 0 0	ティータイム	コーヒー、紅茶等の提供
1 5 : 3 0	帰りの準備	利用者の帰り支度の手伝い、連絡事項の伝達
1 6 : 0 0	健康体操	歌と体操を組み合わせた体操を実施し、転倒予防を図る。
1 6 : 1 5	送り出発	

<年間目標>

利用人員：通所介護・総合事業

平均利用人員 18 人/日

(2025 年(令和 7 年) 1 月現在

平均利用人員 16.2 人/日)

目標設定の根拠

2024 年度(令和 6 年度)は、新規利用者数 17 名、サービス利用終了者数 12 名と新規利用者数が 5 名上回った。しかし目標の平均利用人員 18 名を上回ることにはなかった。

原因として①新規利用までの空床期間が長かった。

②ショートステイとのサービスの併用で休みがあった。

③入院期間が長かった。

対策として①居宅介護支援事業所を訪問し空床情報の提供を行う。

②介護支援専門員に入院中の様子を伺い、サービス継続の見極めを行う。

以上の対応を行っていたが目標達成には至らなかった。

目標達成の為に

① 居宅介護支援事業所に対し最新の空き情報を提供し新規紹介につなげる。

② 管理者だけでなく職員全員が、法人のサービス内容を知り利用者のサービスが途切れることなく継続できるように支援する。

③ 入院での空床期間短縮するために介護支援専門員と連携する。

また職員全員が、日ごろから利用者の体調管理に目配り気配りを行う。

④ 地域で認知症カフェ「にんかふえ楽笑」を開催することで馴染みの関係

を築く。

以上4点を行うことで10.7%の実績回復を見込んでいる。

<目標達成の為の具体策>

◇稼働率の維持

- ・管理者、相談員は、最新の空き情報を共有し外部の居宅介護支援事業所からの問い合わせに迅速に対応し新規紹介につなげる
- ・長期入院や体調不良利用者などの対応として担当居宅介護支援専門員と連絡を密にとり利用継続等の状況確認を行う。必要に応じて法人サービスを紹介する
- ・管理者、相談員は、月1回程度 居宅介護支援事業所を訪問し利用者の利用状況や身体状況を報告することで顔の見える関係づくりを行う
- ・法人の活動などを広く地域、介護支援専門員に発信するためにSNSの登録を依頼する。情報発信を行うことで、施設の認知度を上げ新規紹介につなげる

◇地域との連携

地域とのつながりを深めるために以下の事を実施します

- ・認知症カフェ「にんかふえ楽笑」の開催
月1回第3金曜日に福崎図書館にて開催し、参加者と専門職がお茶を飲みながら気軽に話ができる関係を築き、対話を通じて介護相談や情報提供を行う。
また全職員が参加できるように勤務等の調整を行い地域とのつながりを大切にする。
- ・地域行事への参加
年1回「西治区ミニデイサービス」8月「西治区ふれあいフェスティバル」に参加し地域住民と馴染みの関係を築き身近な相談窓口となる
- ・訪問活動
管理者は、区長宅や民生委員宅を訪問し法人の情報発信や地域の情報を共有することで連携を深める
利用者の社会意欲向上を目指しコンビニエンスストア等地域資源を活用する

◇対応力の強化

- ・管理者は、サービス担当者会議や送迎時に利用者や家族の悩みや思いを聴く。そして自分らしい生活が送れるように地域、行政にはたらきかける
- ・職員はコミュニケーションや日ごろの関りを通して情報収集を行い利用者の「できること」を知り役割を発揮する場につなげる。役割を発揮するときは、職員と共に行うことで喜びを分かち合う
- ・外部研修や法人研修に参加し技術や知識の向上に努める
- ・外部研修終了後に研修報告会を開催し最新の情報を共有する